

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第76号

ななえ古写真物語

VOL. 76

仁山を眺めつつ

謎の施設看板

昭和40年代

峠下バス停付近



nanae historical
museum collection

今でも、大沼方面へ行こうと考え車を走らせる場合、大概是国道5号を北上し、トンネルを抜けるルートを選ぶと思います。その途中で必ず目にするのが仁山スキー場の姿で、季節を問わずスキー場のコースになっている部分が山体にくっきりと描かれる景色は、七飯町民であれば誰も、記憶のどこかに、自然と焼き付けられているような気がします。

そんな仁山の雄姿を後背にした上の写真は、国道5号と北斗市から伸びてきている主要道道上磯峠下線（96号線）とが交差する場所から撮影されたと考えられるもので、「峠下」のバス停が今とさほど変わらない位置にあるので、場所はわかり易いと思いますが、現在4車線となっている車道が、今より幅の狭い2車線だったり、歩道も完備されていなかったりと、その姿はちょっと異なります。

また、今の交通量を基準に考えると、不安に思ってしまうのですが、写真を見る限りこの交差部分に信号機が設置されている様子もなく、道路標識も今では見ることのない配色ですし、電柱もコンクリートではなく木製であることが、見覚えのある景色でありながらも、なぜかのかな鬱陶気を感じさせてくれます。

年代については、手前右側にあるトヨタ社の（おそらく）3代目クラウンが描かれている看板に着目し、この車種の発売年が昭和42年であることから、昭和40年代と推定しました。看板みるだけでも、懐かしさを覚える人がいるのではないのでしょうか？

さて、道路がT字に交差する箇所には、「仁山高原」という看板と共に少し横長の看板があるのがわかるかと思いますが、この画像では不鮮明で分かりにくいのですが、元写真をできるだけルーペで拡大して解読したところ「八芳園（おそらく園の字と思われる）」という文字と「大沼トンネル入り口…（他は判読できず）」の一文が書かれていることがわかりました。

現在、大沼トンネルの手前に七飯クリーンセンターへ向かう道がありますが、おそらくその周辺にあったと思われる観光施設の看板の様です。私もその存在をほとんど知らなく、また町史にも詳しい記載がないため、こういった施設かわかりませんが、倒壊した建物の残骸が今も残っており、10年ほど前に何かわからず探索したことがありました。

できれば「八芳園(?)」を訪れたことのある方に、その実体をご教授願いたいものです。

5月の予定

2日

ふぁみりーでいみゅーじあむで、「桜もちづくり」に挑戦しました。食紅を使って道明寺粉をピンク色に染めたり、あんこをまるめたり、塩漬けした大島桜の葉っぱを水でもどしたりして、最後は包んで出来上がり！みんなで、試食しましたが、おいしそうに食べている姿がとても印象的でした。



5日

夜の博物館ナナエガク4「試作地ななえの真価」を開催しました。明治期の七飯町で試作された食品加工物を紹介したり、古文書に書かれているレシピをもとに、ブドウを使ったジャムを試食してもらったりしました。最後の講座も和やかな雰囲気のもとで行うことができました。



9日

冬の探鳥会を開催しました。大沼周辺を移動しながら、水鳥や大型猛禽類23種を観察しました。

今年は残念ながら、オオワシとオジロワシは見る事が出来ませんでした。ハイタカとオオタカを見ることができ一安心。途中、猛吹雪に見舞われたりしましたが、良い時間を過ごせたと思います。



22日

ジュニア探検クラブ最後の講座を行いました。まずは、一年間の活動をまとめる文集づくりからです。まずは、学芸員が和紙の特徴と歴史を説明、その後、原稿を製本して一冊の本を作り上げました。

午後は閉講式。当館館長から修了証が渡されました。会員の皆さん、一年間本当にお疲れ様でした。



1	木
2	金
3	土 憲法記念日
4	日 みどりの日
5	月 子どもの日
6	火 振替休日
7	水
8	木
9	金
10	土
11	日 春の探鳥会
12	月
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日 ななえの観桜会
19	月
20	火
21	水
22	木
23	金
24	土
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木
30	金
31	土 ジュニア探検クラブ

※5月の休館日はありません。

パネル展開催中！

4月17日から、本紙で掲載してきた古写真や当館所蔵の古写真を展示していますので是非お越し頂ければと思います。



編集後記 ~tawagoto~

新年度が始まりました。スタッフも新しくなりましたが、どうぞ本年度も当館へのご支援を賜りたくお願い申し上げます。

ところで、空気に寒さがまだ残っていますが、日の当たる場所では、気付かぬ内に春が忍んできているようです。当館のまわりでは、土筆（つくし）が高さを競うように並んでいたり、ヤナギの芽が黄色く広がってきていたり、これから多くなっていく彩りを楽しみに過ごしています。（やまだひさし）

Picture

～ピチャリ～

第76号

平成26年4月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp